メコン河開発諮問委員会
第11回会議議事録

1．はしがき

2．会議の概要

3．委員会発言要旨

4．委員会参考資料目次

昭和49年7月

海外技術協力事業団
開発調査部

100
36
KE
SRARY

国際協力事業団

受入月日 '87.7.07	100
	36
登録No. 08763	KE

1. はしがき

—開催趣意書抜萃—

昭和43年6月に第1回会議を開催して以来メコン河開発諮問委員会（以下委員会という）はサンボール計画をはじめ諸プロジェクトの進め方についての検討も含め，わが国のメコン河流域開発への協力取組み方針の策定など，さまざまな重要な決議を行ってきた。

具体的案件については，昭和44年度のカンボジア王国（当時）のアルミニュウム工業に関する調査団の派遣以後，約3カ年にわたっては地域の戦乱により開発調査事業としての進展はみられなかったが，ベトナム停戦ラオス和平の達成にともない昭和48年度にはノンカイ・ビエンチャン間橋梁計画の見直し調査を実現し，昨年の第10回委員会決議に沿った協力の体制づくりを進めつつある。

こうした情況の中で昨年末の国際協力事業団設置の決定にともない，海外技術協力事業団は7月中には解散することとなった。

今回の技術協力機構の再編成にともない，今後のメコン河開発への取組みの基本的方針を確認するとともに，メンバー各位の今後の協力を依頼することを目的として委員会を開催することとした。

JICA LIBRARY
1058237[7]

2. 会議の概要

日　時　　昭和49年7月3日　正午から2時まで

場　所　　東京倶楽部

議　題　　1) 過去の実績と今後の協力方針について

　　2) 昭和49年度実施予定案件について

　　3) その他

出席者（敬称略）

井上五郎（日本原子力委員会委員）

大堀　弘（電源開発株式会社総裁）

久保田　豊（日本工営株式会社会長）

渋沢信一（国連協会会長）

安芸皎一（日本経済技術コンサルタント社長）

徳野　武（OTCA参与）

大戸元長（海外農業開発財団専務理事）

市浦　繁（日本工営株式会社顧問）

鹿取泰衛（外務省経済協力局長）

杉浦芳樹（外務省経済協力局政策課首席事務官）

藤井崇弘（外務省経済協力局政策課）

高橋通夫（外務省経済協力局技術協力第一課）

田付景一（OTCA理事長）

寺岡卓夫（〃　専務理事）

吉原平二郎（〃　常務理事）

階堂佳次（〃　開発調査部長）

宮本守也（〃　計画課長）

安尾正元（〃　実施第一課長）

鈴木治夫　〃　計画課課長代理）

3. 委員会発言要旨

（階　堂）

ただいまから第１１回メコン河開発諮問委員会を開催いたします。最初に田付理事長からごあいさつを申し上げます。

ーあ　い　さ　つー

（田　付）

本日は御多用中にもかかわらず，井上委員長はじめメコン河開発諮問委員会の委員の皆様及び関係者の方々にお集まりいただき，ありがとうございます。

皆様ご承知のとおり，メコン開発については，１９５７年１０月ＥＣＡＦＥの勧告にもとづき「メコン河下流域調査調整委員会」通称メコン委員会がメコン河下流域４ケ国，タイ，ベトナム，ラオス，カンボジア（クメール）の各代表により，構成されこれに各国が協力を行ない，わが国もメコン委員会設立と同時に，調査などの技術協力や資金協力を行ってまいりました。メコン開発については，海外電力調査会に設けられました「メコン調査会」が主として協力の中心でございましたが，昭和３７年ＯＴＣＡの設立と同時に，メコン調査会の業務をＯＴＣＡが引きつぎ，サンボール開発計画をはじめ多くの調査を実施してまいりました。しかし，メコンのごとき総合開発については，各界の有識経験者の見解を尊重して進めるべきであるとのＯＴＣＡ会長小林中の意向により，昭和４３年「メコン河開発諮問委員会」が設置されました。この委員会は井上委員長ほか６名の委員を以て構成され，その他事務総長，幹事多数の協力を得て，今日までに１０回にわたり会合し，有益な意見具申をいただいてまいりました。とくにサンボール計画の取りまとめについては，並々ならぬご努力をいただいたほか，メコン開発協力の進め方について数多くの助言をいただき，お蔭様をもちまして事業の円滑な実施を期することができたわけでございます。

ＯＴＣＡも今月一杯で解散し，来月より新しく国際協力事業団として発足する予定でございますが，今日までの委員会のご努力に対し厚くお礼申し上げますとともに，新事業団となりましても，この委員会の果した機能が継続されますよ

う皆様のご協力をお願いする次第でございます。

（井　上）

日本が，一つの地域に１０億円に近い調査協力を行なったという例はたぶんなかろうし，日本の援助実績の大きな柱となるものだと，私は考えております。私自身は１９６１年に外務省から話があって，その後ＯＴＣＡができてからも同様に，メコン河開発との関係を保ってきております。

地域の政治情勢から考えても，早急な開発は望めないけれども，開発計画の中心課題であろうと思う。

今日は理事長も述べられたように，新らしい事業団に移行するこの時期に，諮問委員会として，関係者として，どのように引き継ぎを願うか，そういったことをここで伺っておきたい。この委員会で最終報告をまとめてＯＴＣＡ会長に提出し，これで諮問委員会としては解散をする。そして新らしい事業団ができれば，事業団なりのあらたな取組みを検討していただく，そういったことでいろいろご意見をたまわりたいと思っております。

―昼　　食―

（井　上）

お手元に資料が配られているので，これについての説明をしてもらえますか。

（階　堂）

資料説明―略―

（井　上）

諮問委員会として取りあげた問題を整理して，プロジェクトのうちで開発が進んでいるもの，資金の供与が望まれるもの，なお調査の必要なもの，そういったものをどのように引き継ぐのがいいか。外務省としての方針がおありのことだろうが，新らしい事業団に引継いで，やっていただきたい問題というのをどういうようにとりまとめるのが妥当かということです。

（久保田）

幕を閉じる時点で，従来の実績をふまえて，今後の方向の指針となる提言をするということでよろしかろうと思います。

数年前までは調査の実施を行なってきておったが，このところ中断してしまっている。諮問委員会の意見として，技術協力のベースの拡充をお願いしてはどうか。（調査の必要なプロジェクトは）いくつかあるが，

1) ノンカイ・ビエンチャン橋

これの要点は，計画を縮小すれば８００万ドルくらいでできるという案があって，しかし物価もあがっていることだしもう一度見直してほしいということです。昨年の調査ではタイのＮＥＡ* 案（縮小案）は現実的でないんですね。１９６９年の日本側のフィーノビリティー調査を検討したアノア開発銀行は，戦争中の物資流通を基本にしたベネフイノト（便益）計算は適当でないと言っているんだが，交通費もあがっているし，今のフェリーたと積みかえの料金もかかる。材木の取引きも増えておるし，日本に再度フィーノビリティー調査を依頼してくるはずです。ラオス側が東へ（南ベトナムの海岸まで）輸送ルートを伸ばしたいという計画をもっておって，このところ以前は消極的だったタイが，この橋梁計画に熱心になってきております。それから

2) 下流デルタ調査**

世界銀行，アジア開発銀行などが積極的である。現状ではカンボノアの力は無理なので，ベトナム国内の農業調査を手伝うというようなことはできるんではないかと思っております。工事費のことは別に考えねばなりませんが，ラオスの

* National Energy Administration。動力庁。長官はNitipat Jaichan氏。

** 1973年末現在オランダチームによるデルタ開発マスタープラン調査（報告書作成）が進行中。

3) ナムテン（Nam Theun）*計画

これは非常によい地区です。タイのみならず，北・南ベトナムにも電力を供給し得る地点にあります。ラオスではこれと，

4) 難民問題への協力

ブーマ首相はこの難民問題への協力と，ビエンチャン空港改善** を日本に期待しておるときいています。難民問題は地区によってはメコン支流計画とも関係するものですから。

（安　芸）

協力の要請は現実にどれくらいでているのだろうか。

（井　上）

要請の有無にかかわらずとは言い切れないにしても，諮問委員会としてこういうものはやっておくべきだという，そういう前提で意見をまとめておくということでどうでしょうか。こっちがある程度積極的になるということも必要と思う。情勢の変化については外務省の方でお考えになって実施されることになるわけだし。どれがいいのかと決めてしまうということではなくて，こういうプロジェクトは取組んでいっていいのではないか，そういう提言くらいになるでしょう。具体的にあげてみると，私はノンカイ・ビエイチャン間橋梁は順位の高いものと思っているのです。若干日本政府で（建設費を）負担するということでもいいのではないか。

サンボール計画については，昨年出た世界銀行修正案に対するコメントを出しており，日本の取り組みは評価されているといえる。タイが強硬に「パモン

* ラオスの首都ビエンチャンの南約１５０Kmの地点でメコンに合流する。１９７３年４月２９日付ビエンチャンニュース（英字週刊紙）によるとフランスも関心をもっている由。

** １９６８－１９７０にかけてＯＴＣＡ実施設計。滑走路延長工事等は無償協力により１９７０から２期にわけて実施。

をやれ」，といった主張をしているらしいが，私はこれには反対です。今後，サンボールを進めるとして，スタントレンはどうなるのかという問題は残るのですけれども。しかし戦争が落ち着いたら，すぐ現地調査ができるように，用意しておくというか，つないでおくという必要があると思うのです。調査当時の考え方は，サンボールの発電量が大きすぎるということだったが，世界銀行のレポートがいうように電力需要のバックグラウンドがかわってきているわけです。現在の目で見たらどうなるのか，そういう調査はできるだろう。

（久保田）

現地調査は当面できないだろうが，工事費もあがっているしデスクスタディー（机上調査）を続けるということは意義があると思います。

（井　上）

世界銀行レポートがいっているようにサンボールが進んだ場合，下流の影響はどうかということもデスクスタディーでやっておいたらいいでしょう。

（大　戸）

下流のかんがいについても，影響を受けるわけですし，デスクスタディーの対象とするべきだと思います。

（久保田）

乾季の水量が増え，受益面積も増えますしね。

（渋　沢）

さきほどノンカイ・ビエンチャン橋に関連して，タイとラオスの関係が従来とちがってきているという話があったのだが，外務省としてはこうした地域の現状にどう対応していますか。なにかこれまでとかわったところがありますか。

（鹿　取）

基本的なところはかわっていないといえます。メコン開発への協力は，わが国の援助の中でも筋のいい，模範的なものであると考えております。当面は難民の問題に対処せねばならないといった事情はありますが，フィージブルなプロジェクトには協力していきたい。北ベトナムとの関係はメコン委員会においてクリアーになれば，積極的に取組んでいくことになると思っています。やはりベトナムがインドシナの中心で，ベトナムが政治的，経済的に安定すれば，他の国々も安定するといえるんではないでしょうか。関係各国とも，日本の援助・協力への要望は強いと，そういうふうに考えております。

（寺　岡）

メコンのプロジェクトはこれまでマルチラテラル援助として行なわれたわけですが，今後ともさきに言われた状況の変化の中で，つねにインドシナ全域との関連においてとりあげていくというのが現実的なのかどうか，この点はどうでしょうか。

（井　上）

メコンスピリットというのは評価できると思いますし，これまでマルチラテラルでやってきたことも評価できると思っています。しかし国際河川の開発というのは，いろいろな例でみてもたいへんむつかしい。援助一般について，マルチラテラルがいいのか，バイラテラルがいいのかの議論は別として，実際にプロジェクトが動き出すとなると，マルチラテラルでは無理があるように思うのです。

（吉　原）

鈴木源吾さん*のご意見なんですが，メコン河開発もはじめは舟航，電力開発に重点がおかれていたけれども，このところ農業に重点がうつってきている

* メコン・アドバイザリー・ボードのメンバー。

と，それで日本政府の対応はどうか，ということなんです。農業開発といった分野で，さきほどデルタのかんがいについて意見も出されておりましたが，今後どのように取組むか。

（井　上）

アメリカは農業についても積極的だったわけですが，（日本にとっては）従来は問題の把握解決が困難であって，当委員会においても大きなアイテムになってなかったと思います。

（安　芸）

ベトナムでは塩害問題からスタートしている。リリエンソール報告*も，ベトナムの開発におけるデルタ開発の重要性を指摘していますが，それには塩害対策を考えねばならない。むつかしい問題ですが……。

（久保田）

穀物が不足していることははっきりしているし，米づくりに手をかすということは必要でしょう。デルタについてはオランダが調査しているが，私の会社でも塩害の方を調べております。

（井　上）

大事なことはわかるんだが，正直いってこれまでわれわれもとりあげておらずそう簡単には手を出しかねる問題だと私は思うのです。

時間の方も迫ってきましたので，今日のまとめということになりますが，これまでずいぶんメコン河開発に協力してきたわけで，新らしい事業団ができても，それが尻すぼみになるということのないように，提案をするということにして，ひとつ案をまとめてみます。実施は新事業団の方の判断におまかせする

*1969年3月に刊行されたThe Postwar Development of the Republic of Vietnam: Policies and Programsの通称。

として。この案は追って皆様に回覧しますが，そのあとについては私に一任していただけますか。

（大　堀）

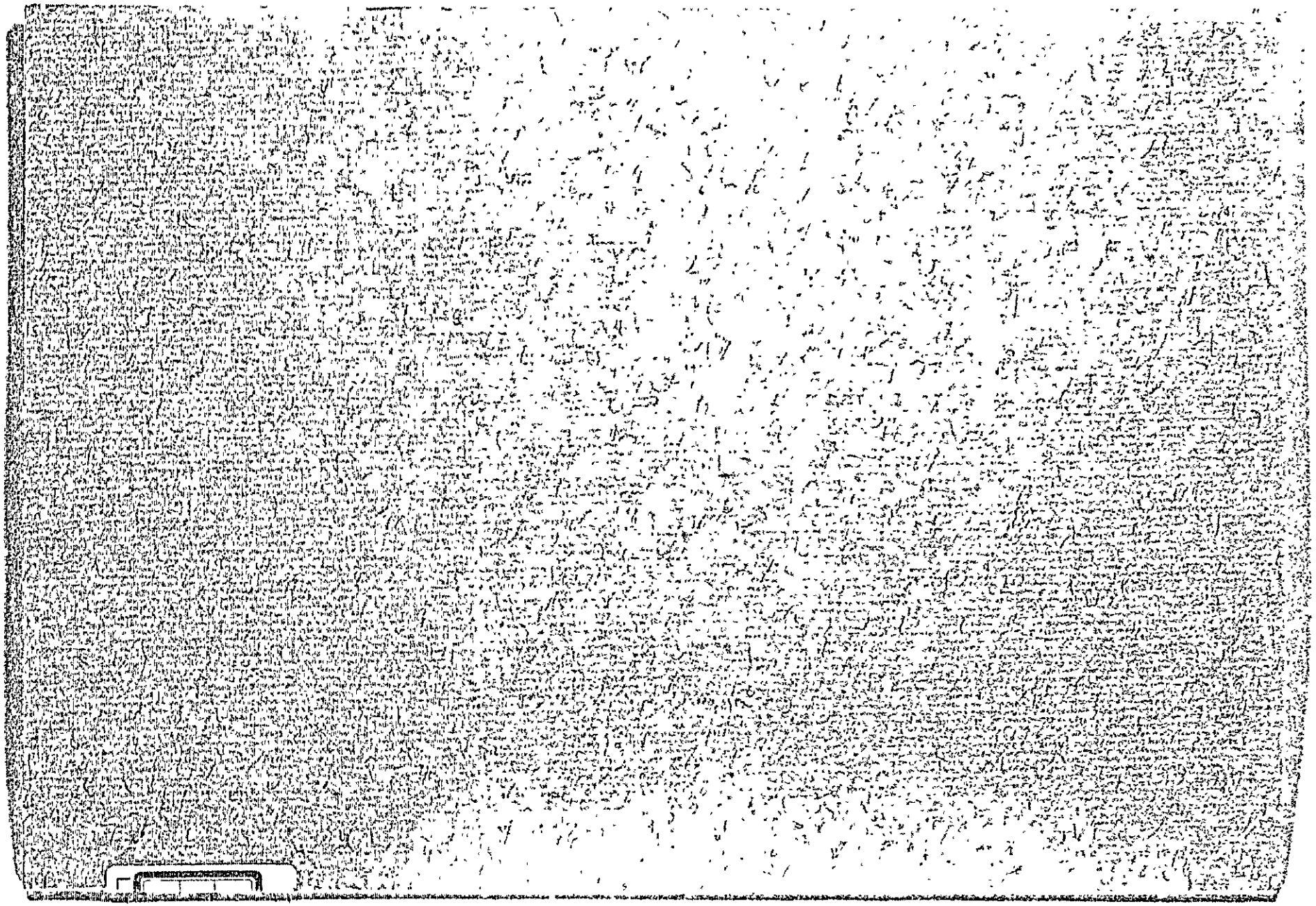
そういう方針でやっていただいて結構です。私は賛成です。

（田　付）

中山会長も，井上委員長のおっしゃったような意向ですので，よろしくお願いします。

本日はご多忙中のところ，ありがとうございました。

4. 委員会参考資料目次

1. わが国のメコン開発に対する政策と従来の経済協力実績（外務省資料による）
2. メコン河開発計画調査実績
3. サンボール計画の世銀代替案に対するコメント
4. メコン年報（１９７８）所載のサンボール計画に関する記述（英文）
5. 第６５回メコン委員会議事録所載のノンカイ・ビエンチャン間橋梁計画に関する記述
6. 第１０回メコン開発諮問委員会による答申
7. パイオニア農業プロジェクト一覧表

付録：第６４回メコン委員会（総会）出席報告書